

学部基礎科目の目次 (2017年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(16E・17E)の科目区別に編成されています。15E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

| | | | |
|---------------|---|-------|----|
| 経 済 数 学 入 門 | イ | | 1 |
| 経 済 数 学 入 門 | ロ | | 3 |
| 統 計 学 入 門 | イ | | 4 |
| 統 計 学 入 門 | ロ | | 5 |
| 経 営 学 入 門 | | | 7 |
| 簿 記 入 門 | イ | | 8 |
| 簿 記 入 門 | ロ | | 9 |
| 経 済 史 入 門 | | | 11 |
| ミ ク ロ 経 済 学 I | イ | | 13 |
| ミ ク ロ 経 済 学 I | ロ | | 14 |
| マ ク ロ 経 済 学 I | イ | | 15 |
| マ ク ロ 経 済 学 I | ロ | | 17 |

| | | | |
|---|----------------|------------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310121) 経済数学入門イ Introduction to Mathematics for Economics | 科目区分 | 時間割 後期水1 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 天谷 研一 | 関連授業科目 | 経済数学、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、 マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学等、経済学を学習する上で必要となる数学のうち、微分・積分に関連する分野を講義する。 | | | |
| 授業の目的 ミクロ経済学・マクロ経済学等の経済学では、「生産量を増やすと費用はどれだけ増えるか」「価格を下げると需要量はどれだけ増えるか」等のように、数量と数量の関係(数学用語を用いれば、変数と変数の関係)を頻りに議論する。とりわけ、「利潤を最大にするにはどれだけだけの数量を生産すればよいか」等のように、最適化の問題はとりわけ重要である。このような変数間の関係を議論するために必要な数学的手法が微分・積分である。本講義では、経済学を学習する上で必要となる微分・積分の手法を学習する。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・微分、偏微分、積分の意味を説明できる。 ・基本的な関数の微分、偏微分、積分の計算ができる。 ・経済学において微分、偏微分、積分の手法がどのように使えるのか、簡単な例を用いて説明することができる。 ・経済学における基本的な最適化問題を解くことができる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題(30%)、期末試験(70%)により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| <p>授業は主に板書およびプロジェクタ投影を使用した講義形式で行います。授業中に適宜問題演習を行います。また宿題として演習問題を課します。</p> <p>予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。</p> <p>第1回 インTRODクション、微分・積分とは何か</p> <p>～第1部 微分の基礎～ 第2回 微分の基礎的な概念と手法(1) 第3回 微分の基礎的な概念と手法(2) 第4回 2階微分、凸関数・凹関数と最大・最小 第5回 極限に関する厳密な議論</p> <p>～第2部 積分の基礎～ 第6回 不定積分 第7回 定積分と面積の計算 第8回 積分の経済学への応用</p> <p>～第3部 微分の発展～ 第9回 べき乗・指数関数・対数関数と微分(1) 第10回 べき乗・指数関数・対数関数と微分(2) 第11回 合成関数の微分 第12回 2変数関数の微分 第13回 条件付き最大化問題 第14回 微分の経済学への応用</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>授業計画は、受講生の理解度をみて必要があれば変更する場合があります。</p> | | | |

教科書・参考書等

下記書籍を購入し参照することを推奨する。ただし、他にも良書があるので、自分の好みに応じて選んでも良い。

尾山大輔他（編著）『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』2012年、日本評論社、2100円＋税

オフィスアワー 月曜日 4校時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。
2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。

| | | | |
|---|----------------|------------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310122) 経済数学入門 Introduction to Mathematics for Economics | 科目区分 | 時間割 後期水1 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 星野 良明 | 関連授業科目 | ミクロ経済学I・II, マクロ経済学I・II | |
| | 履修推奨科目 | | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目を学習する上で必要となる基礎数学（特に微分・積分と偏微分）について、証明よりも公式と解法に重点を置いて講義します。高校数学の復習からはじめて、経済学における活用例を交えながら解説します。 | | | |
| 授業の目的 経済学で使う微分・積分と偏微分の基礎を理解する。経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1. 微分・積分と偏微分の意味を説明することができる。 2. 経済学で使う基本関数について、微分・積分や偏微分を計算できる。 3. 経済学で使う基本関数について、最適化問題を解くことができる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題(30%)と期末試験(70%)で評価します。詳細は初回授業で説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 授業は板書と授業資料のプロジェクトアプレットを併用して進めます。授業資料は、当日配布する場合とMoodleから各自印刷して持参してもらう場合があります。 【授業計画】 進行状況により若干の変更をする可能性があります。 1. 経済学で扱う基本関数 (第1～4回) [1・2・3次関数, 指数法則, 累乗関数, ネイピア数e, 逆関数, 指数関数, 対数関数] 2. 微分・積分とその応用 (第4～9回) [微分係数と接線, 微分公式, 第2次導関数, 増減と凹凸, 不定積分と定積分] 3. 等高線と偏微分 (第10～12回) [偏微分係数と偏導関数, 偏微分公式, 等高線の傾き, 全微分と接平面] 4. 2変数最適化問題 (第13～15回) [停留点と鞍点, 等号制約付き最適化問題] | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 講義中に復習のために演習問題を出します。予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です。また理解を深める上で、エクセルなどPCソフトで関数グラフを描いてみることも有効です。 | | | |
| 教科書・参考書等 【教科書】 使用しません。 【参考書】 ・丹野忠晋 (2017) 『経済数学入門：初歩から一歩ずつ』日本評論社。 ・白石俊輔 (2014) 『経済学で出る数学：ワークブックでじっくり攻める』日本評論社。 ・尾山大輔・安田洋祐 (2013) 『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』改訂版, 日本評論社。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日4時限目 (予定) | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 最初のうちは高校の復習が多くなりますが、油断せずに継続して出席することが大切です。 | | | |

| | | | |
|--|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310141) 統計学入門Ⅰ Introduction to Statistics 統計学の基礎 | 科目区分 | 時間割 前期水1 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1STT | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 久松 博之 | 関連授業科目 | 統計学 | |
| | 履修推奨科目 | 統計学 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 統計学の基礎は大きく記述統計と統計的推測に分けられる。このうち「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計を中心に学習する。「統計学」では標本を取り出してそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測について学習する。この2科目で大学学部基礎レベルの統計学を学習する。 | | | |
| 授業の目的 全ての判断の根拠を問えばそれは統計学である。実際のデータの持つ情報を読み取り、判断のよりどころを得るための方法を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1年次前期の「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計の考え方が理解できるようになる。1年次後期の「統計学」では、標本を取り出しそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測の考え方を理解できるようになる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験(100点満点)による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 講義ノートによる板書講義。テキストはその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。随時、練習問題を解く。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。 | | | |
| 【授業計画】 第 1 回. 統計学とはなにか 第 2 回. 統計データの種類(量的データ, 質的データ, 時系列データ, 多変数データ) 第 3 回. 統計データの尺度(順位尺度, 名義尺度, 間隔尺度, 比率尺度) 第 4 回. 統計表のグラフ表現(度数分布とヒストグラム) 第 5 回. 中心の位置の統計量(最頻値, 中央値, 平均値) 第 6 回. 中心の位置の統計量(度数分布表の平均, 加重平均) 第 7 回. 変化を表す統計量(変化幅, 変化率, 寄与度, 寄与率) 第 8 回. 散らばりの統計量(分散, 標準偏差, 四分位偏差) 第 9 回. 標準偏差の活用(チェビシェフの不等式, 変動係数, 標準化) 第 10 回. 散らばりのグラフ表現(四分位範囲, 箱ひげ図) 第 11 回. 2変量の関連性(散布図と相関係数) 第 12 回. 確率(確率の定義, 条件付き確率, 事象の独立性) 第 13 回. 確率変数と確率の対応関係 第 14 回. 母集団と標本(標本抽出, 全数調査と標本調査) 第 15 回. 記述統計の総括と推測統計学(統計的推測)へ向けて [期末試験] | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 予習はしなくていいが、授業中取ったノートをもとに授業内容を復習すること。宿題を出す場合があるが、それは予習ではなくもっぱら復習の手助けになるものと考え。 | | | |
| 教科書・参考書等 教科書: 4月時点では『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』のみ購入すればよい。 『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』, 稲葉由之著, 弘文堂, 定価1800円+税 『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』, 稲葉由之著, 弘文堂, 定価1800円+税 (注意) 授業の第1回～第11回で『プレステップ 統計学Ⅰ 記述統計学』のすべての章を扱う。第12回～第15回で『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』の第1章～第3章を扱う。なお、後期の「統計学」では『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』のすべての章を扱う。 | | | |

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 「統計学入門」と「統計学」の2科目で、大学学部基礎レベルの統計学を学習する。後期の「統計学」を必ず履修すること。
2. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。
3. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を禁止する。

| | | | |
|--|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310142) 統計学入門 Introduction to Statistics | 科目区分 | 時間割 前期水1 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1STT | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 大野 拓行 | 関連授業科目 | 情報リテラシー | |
| | 履修推奨科目 | 統計学 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 社会科学を学ぶ際には、これまでに蓄積されてきた理論を学習するとともに、現実のデータから有益な情報を見出す方法を習得することが大切である。データの特徴を客観的に記述したり、データからの推論を客観的に行う際には、統計的手法が役立つ。この講義は経済学部の学生が、専門教育や社会に出てから必要となるであろう基本的な統計学の知識の習得を目的とする授業である。数学の基礎知識は特に必要はないが、四則演算を中心とした計算は頻繁に出てくるので、こつこつと努力する必要がある授業である。 | | | |
| 授業の目的 記述統計を中心に学習し、データの持つ情報を読み取り判断の拠り所を得るための方法を身につける。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・データを整理して、分布の中心や広がりを理解できる。 ・基本統計量により、分布の特性を読み取る能力を養う。 ・正規分布の重要性を理解し、利用できるようになる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 授業における演習、中間試験、期末試験などを総合的に見て評価する。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| 【授業計画】 (1) 授業の概要 (2) データの整理 (3) 度数分布表 (4) ヒストグラム (5) 基本統計量1 (6) 基本統計量2 (7) 基本統計量3 (8) 基本統計量4 (9) 分布の形 (10) 正規分布1 (11) 正規分布2 (12) 正規分布3 (13) 相関分析1 (14) 相関分析2 (15) まとめ 【自学自習に関するアドバイス】 練習問題を丁寧に解くこと。 | | | |
| 教科書・参考書等 特に使用しない。講義用資料をMoodleに掲載する。 | | | |
| オフィスアワー 火曜日 4 限目 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業内容は連続しているので、欠席すると理解できなくなります。 Moodleを利用します。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|---|---------------------------|
| ナンバリングコード B1BSN-bcxE-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320201) 経営管理論 Management and Administration | 科目区分 | 時間割 前期火5 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1BSN | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 20 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 塩谷 剛 | 関連授業科目 | 経営戦略論A/B、経営組織論A/B、 人的資源管理論A/B、イノベーション論、 経営財務論 | |
| | 履修推奨科目 | 経営戦略論A/B、経営組織論A/B、 人的資源管理論A/B、イノベーション論、 経営財務論 | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 | | | |
| 授業の概要 経営管理論は、営利企業に限らず、官庁、学校などの組織における複雑な活動や現象を整理し、深く理解していくための考え方を提供している。経営管理というとビジネスの知識といったイメージを持つかもしれないが、経営管理論は、企業経営だけではなく、例えば、みなさんが所属している家庭、部活、サークルなどの組織運営やみなさん自身の意思決定にも応用することができ、ビジネスパーソンのみならず全ての人々にとって有益な学問であると考えられる。 本講義では、経営管理論とはどのような学問であるか概観し、その基本的に考え方について組織と外部環境のマネジメントを中心に説明していく。 | | | |
| 授業の目的 本講義では、経営管理論がどのような分野から成り立っているのかを概観し、各分野における基礎知識を習得してもらい、より専門的な科目への橋渡しをすることを目的としている。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| ①経営管理論における各分野の概要を説明できる。 ②経営管理論における各分野の基礎知識について説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 小レポートの提出30点(2点×15回、各300字以上400字以内)+期末試験70点 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回：経営管理論とはどのような学問か 第2回：企業とはどのような存在か 第3回：マネジメントの誕生 第4回：組織マネジメントの展開 第5回：モチベーション論 第6回：リーダーシップ論 第7回：組織構造のマネジメント 第8回：組織文化のマネジメント 第9回：経営組織の環境適応 第10回：企業戦略のマネジメント 第11回：競争戦略のマネジメント 第12回：イノベーションのマネジメント 第13回：日本企業における人のマネジメント 第14回：生産管理とその日本的特徴 第15回：日本企業の財務管理とコーポレート・ガバナンス 【自学自習に関するアドバイス】 <予習> 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 <復習> 教科書の該当箇所を読んでおくこと。教科書の章末問題(Working、Discussion)に取り組むこと。講義でも章末問題を一部抜粋し、小レポート課題にする。 | | | |
| 教科書・参考書等 上野恭裕・馬場大治編(2016)『経営管理論』中央経済社 | | | |
| オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 当たり前のことですが、私語、携帯電話の使用は厳禁とします。講義で習った理論を教科書、講義資料等で復習し、身近な経営現象に当てはめてみることを心がけて下さい。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320312) 簿記入門イ Introduction to Bookkeeping | 科目区分 | 時間割 前期火4 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1BSN | DP・提供部局 bcxE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 繁本 知宏 | 関連授業科目 | 会計学総論、原価会計論 | |
| | 履修推奨科目 | 原価会計論 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (とりわけ十分な復習が必要) | | | |
| 授業の概要 本授業では入門レベルの商業簿記を講義する。簿記初心者を念頭に置いて授業を進行する。簿記とは、企業や商店などの経済活動のうち、金銭的な側面について帳簿に記録・計算して、報告書(財務諸表)を作成するための手続である。簿記は会計学の学習の基礎となるだけでなく、ビジネス社会における共通言語であるため、学生のうちに簿記を学んでおけば社会人になった時に必ず役に立つだろう。 | | | |
| 授業の目的 受講生が複式簿記の仕組みや基礎概念を理解し(DPの「知識・理解」、簿記の技術的能力を身に付けること(DPの「問題解決・課題探究能力」)が、本授業の目的である。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1. 複式簿記の仕組みや専門用語を説明できる。 2. 期中取引や決算整理の仕訳を正確に行える。 3. 精算表から財務諸表を正確に作成できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験80%、中間試験20% | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的にテキストに沿って授業を進めるが、説明の順序を入れ替えたり、授業では省略する項目もある。授業中に練習問題を解くことが多いので必ず電卓を持参すること。携帯・スマホ等の電卓機能の使用は禁止する。 | | | |
| (各回の授業内容) 第1回: オリエンテーション、簿記の基礎 第2回: 簿記上の取引と勘定 第3回: 仕訳と転記 第4回: 現金・預金取引 第5回: 商品の売買と売上原価 第6回: 掛取引、貸倒れ 第7回: 中間試験 第8回: その他の債権・債務取引 第9回: 手形取引 第10回: 有価証券取引 第11回: 有形固定資産取引(1) 第12回: 有形固定資産取引(2)、資本取引と税金 第13回: 決算手続(1) 第14回: 決算手続(2) 第15回: 総復習 上記予定は実際の進捗に応じて変更が有り得る点に注意されたい。 | | | |
| (学習の方法) 簿記の授業内容は連続性が高いため、一部の項目だけをつまみ食いするような学習は困難である。また、簿記をマスターするためには、練習問題を繰り返し解くことが不可欠である。 | | | |
| 教科書・参考書等 【教科書】 伊藤龍峰・長吉眞一・工藤栄一郎・青木康一・仲尾次洋子『簿記入門テキスト(第2版)』中央経済社、2017年 【参考書】 適宜紹介する。 | | | |
| オフィスアワー 初回授業時に指定する。ただし指定時間以外であっても、事前に連絡があれば学習相談に随時応じる。 | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中の私語や携帯・スマホの使用(カメラ機能の使用を含む)をはじめ、他人の勉学の権利を害するような行為は厳に慎むこと。そうした行為には厳正に対処する。成績調査は正規の手続を踏むこと。 | | | |

| | | | |
|--|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320313) 簿記入門 Introduction to Bookkeeping | 科目区分 | 時間割 前期火4 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1BSN | DP・提供部局 bcdE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 宮脇 秀貴 | 関連授業科目 | 原価会計論および会計関連の授業 | |
| | 履修推奨科目 | 原価会計論 | |
| 学習時間 | 講義90分×15回+自学自習 | | |
| 授業の概要 簿記や会計は、現在も、ビジネスの場面では「共通言語」として使われています。そして、その役割が現代では昔以上に重要になってきています。なぜだと思いますか？その主な要因の1つは、何と言っても世界へ向けて日本の企業が情報を発信しなければならなくなったからです。そこでは、世界の標準にそって物事が進められ、その成果も世界の報告基準にそって公表されます。その報告基準が（国際）会計基準であり、その会計基準にそって企業の活動を記録していく方法が「簿記」なのです。つまり、「簿記」を学習することは、ビジネスの共通言語を理解するためには欠かせない要素なのです。 この講義では、個人商店の簿記・会計処理に焦点を当て、簿記の基本要素である「仕訳」、「転記」および「帳簿・勘定の締め切り方」を学習していきます。簿記は理論だけではなく、技術的な面が非常に重要なので、授業中の演習や宿題を通して、みなさんには実際に手を動かして技能として覚えてもらう機会が多くなります。なお、いきなり個人商店の簿記・会計処理の全てを学ぶことは難しいので、「基本」となるトピックを中心に学習していくことにします。 以上の学習を通じて、基本的な簿記の能力を身に付けてもらいます。 | | | |
| 授業の目的 どのような職業に就いても、自分の会社や部署、担当している仕事の状況は、お金（会計）に関する情報で把握しなければなりません。そのための基本となる、お金（会計）に関する情報がどのように作られるのか、つまりこの授業の目的は、「会計情報の「作り方」である複式簿記の基本的な仕組みと処理を理解し、複式簿記の技能（スキル）を身に付けること」です。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| (1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる (2) 個人商店の商業簿記の基本的な処理を理解し実践できる | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。) | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] 口述筆記、板書、演習、理解度クイズ [授業計画 (予定)] (第1週) ガイダンス (第2週) 複式簿記の基礎①(簿記とは?、貸借平均の論理、残高) (第3週) 複式簿記の基礎②(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用とは?) (第4週) 複式簿記の基礎③(精算表・損益計算書・貸借対照表の作り方) (第5週) 複式簿記の基礎④(仕訳と転記) (第6週) 複式簿記の基礎⑤(振り替えとは?、決算とは?) (第7～9週) 複式簿記の基礎⑥(決算手続きと帳簿の締め切り) (第10週) 帳簿体系の基礎+個別取引(現金、現金出納帳、当座預金) (第11週) 商品取引(分記法と3文法、売掛金元帳・買掛金元帳) (第12週) その他の債権・債務①(未収金・未払金、固定資産、売買目的有価証券など) (第13週) 手形取引と受取手形記入帳・支払手形記入帳 (第14週) 決算整理(減価償却、有価証券の時価評価など) (第15週) 3分法による決算の処理 [自習学習に関するアドバイス] <基本> (第1～15週) 毎週、理解度クイズを提出してもらいます。これを解くことなどを通して復習して下さい。 (第1週) この授業を学ぶ意味と大学で学ぶことを、配布資料をもとに考えてみて下さい。 (第2～5週) 簿記で用いる専門用語、表などへの記入の仕方を復習して下さい。 (第6週) 仕訳と転記を考えずにできるまで、繰り返し復習して下さい。 (第7週) 振り替え手続きと決算の流れを復習して下さい。 (第8～9週) 決算の手続きと帳簿の締め切り方を復習して下さい。 (第10～15週) 帳簿体系を理解し、基本的な個別取引の処理や帳簿への記入ができるように復習して下さい。 | | | |

教科書・参考書等

[教科書] (予定)宮脇秀貴「商業簿記の基礎」セキ株式会社 2019

[参考書] 醍醐 聰「明解簿記 上」一橋出版、新井益太郎・稲垣富士男「新会計 (新訂版)」実教出版

オフィスアワー 毎週水曜日「15:30~17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず予習・復習を行うこと。特に復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこれなくなります。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。そうでなければ間違いなく単位を落とします。

| | | | |
|---|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331010) 経済史入門 Introduction to Economic History | 科目区分 | 時間割 前期月2 | 対象年次及び学科 1～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 becE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 山本 裕 | 関連授業科目 | 日本社会経済史、経営史 | |
| | 履修推奨科目 | 日本社会経済史、経営史 | |
| 学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 | | | |
| 授業の概要 人々の経済的営みの集積の果てに、今日の私達を取り巻く経済的環境が形成されている、という理解に立った時に、それでは、どのようにして、今日の経済的環境は形成されてきたといえるのだろうか。 本科目は上述した問いに対する学術的接近を、経済史という学問領域より行うこととする。具体的には近代という時代に着目して、経済史の概説を講義する形態をとって、接近していく。その際、(1)近代の経済を、ヨーロッパを中心として、①人口、②市場、③工業化、という三点に着目してその発展を考察し、近代以前の時代との連続・非連続的側面についても併せて考察する。(2)19世紀の世界経済をヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の関係に力点を置いて、大量生産社会への移行と国際経済の生成・発展に留意しながら考察する。(3)20世紀の世界経済を、二度の世界戦争と民族独立運動の展開に留意しつつ、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本の経済的関係の推移に力点を置きながら考察する。以上のことがらに焦点を合わせて講義を進めていく。 | | | |
| 授業の目的 近代という時代を中心とした経済史について、その基礎知識の習得を目的とする。今日、私達は経済のグローバル化を当然のものとして理解している。しかし、人口の増大、市場圏の拡大、機械制大工業による大量生産の実現等が世界の各地で果たされた結果、ようやく19世紀に国際経済システムが生成されるに至った。以上述べたように、私達が常識として理解している経済的諸問題を、その端緒から帰結に至るまで歴史的に考え、理解していく。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| 1) 近代経済における地域的多様性を説明できる。 2) 一国的枠組ではなく、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験(80点)と、2回の授業レポート(計20点)で成績を判断するが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行う(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性があるが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行う(優れた意見の提出者には、更に加点する)。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する(moodleに毎回のレジュメをアップロードする)。毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する(なお、期末試験では、自筆ノートのみ持込可とし、配布資料のノートへの貼り付けを不可とする)。講義期間中、2回、レポートを課す。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 | | | |
| (1) イントロダクション: 経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2)～(3) 「産業革命」(1): 「産業革命」とは何だったのか? (※講義回数2回) (4)～(5) 「産業革命」(2): 「産業革命」前史—近世ヨーロッパ経済の諸相とプロト工業化の時代 (※講義回数2回) (6) 「産業革命」(3): ヨーロッパにおける都市化と工業化①イギリスの事例 (7) 「産業革命」(4): ヨーロッパにおける都市化と工業化②フランス・「ドイツ」の事例 (8) 「産業革命」(5): 新大陸の工業化と都市化 (9) 国際経済の展開と帝国主義の時代(1): 「大不況期(1873-96)」における産業的競争激化 (10) 国際経済の展開と帝国主義の時代(2): 国際経済の生成と発展 (11) 国際経済の展開と帝国主義の時代(3): 「帝国主義の時代」におけるヨーロッパ・アジア諸国の経済的動向 (12) 20世紀の世界経済(1): 第一次世界大戦～両大戦間期における諸国の経済的動向 (13) 20世紀の世界経済(2): Managed Economyの時代—世界大恐慌のインパクトと1930～40年代前半における諸国の動向— (14) 20世紀の世界経済(3): 第二次世界大戦後の世界経済 (15) 講義の小括 | | | |

予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのかも、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく（前述の如く、期末試験には自筆ノートのみ持込可とし、配布資料は持込不可とする）。

なお、本科目の講義内容は、高校の歴史系科目との接続を考慮している。

高校時代購入した世界史の図説集を予習・復習時に用いることで、更なる理解が可能になる。特に世界史の図説集として、『最新世界史図説タペストリー16訂版』（帝国書院、2018年、940円[税込]。※古い版のものでも問題ありません）を推奨する。

教科書・参考書等

- ・【教科書】：岡田泰男編『西洋経済史』（八千代出版、1995年、3200円+TAX）。生協の書籍部にて購入のこと。
 - ・【参考書】：長岡新吉・太田和宏・宮本謙介編『世界経済史入門－欧米とアジア－』（ミネルヴァ書房、1992年、3,200円+TAX）、北川勝彦他編『概説世界経済史』（昭和堂、2017年、2,300円+TAX）は、通読を望む。
- また、各回の講義における配布資料には、参考文献を記載する。

オフィスアワー 水曜日4限・5限（ただし、事前にメール等もらえれば、適宜対応する）。研究室は、幸町南キャンパス3号館3階13室。メールアドレスは、yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

| | | | |
|---|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312011) ミクロ経済学 I イ Microeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期火3 | 対象年次及び学科 2～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 星野 良明 | 関連授業科目 | ミクロ経済学II | |
| | 履修推奨科目 | 経済数学入門, 経済と数学 | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 | | | |
| 授業の概要 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部の様々な科目がミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し、ミクロ経済学は経済を構成する個々の消費者や企業の行動に注目します。そして個々の行動(最適化)と相互関係(均衡)を考慮して、市場・産業、さらには経済全体を分析します。 ミクロ経済学Iとミクロ経済学IIでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。前半の本講義では、(1)需要と供給、(2)企業行動と供給曲線、(3)消費者行動と需要曲線、(4)部分均衡分析、(5)独占の各トピックを学習します。 | | | |
| 授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、生産者理論の基礎、消費者理論、部分均衡論、独占の理論を習得する。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> 完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 ミクロ経済学の観点から、消費者の需要が所得や市場価格にどのように反応するか説明できる。 市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題 (30%) と期末試験 (70%) により評価します。詳細は初回授業で説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 授業資料をMoodleに公開するので、各自印刷して持参してください(初回を除く)。授業は主に資料とプロジェクト投影を用いて進めていきます。演習問題を宿題として課します。予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、問題を解いて理解を確認することが必要となります。 【授業計画】 進行状況により若干の変更をする可能性があります。 1. 需要と供給 (3回) [キーワード: 市場経済, 需要曲線, 供給曲線, 均衡, 完全競争, 比較静学] 2. 企業行動と供給曲線 (3回) [キーワード: 費用関数, 限界費用, 利潤最大化, 供給関数] 3. 消費者行動と需要曲線 (4回) [キーワード: 効用関数, 無差別曲線, 限界代替率, 予算線, 効用最大化, 需要関数] 4. 部分均衡分析 (3回) [キーワード: 弾力性, 市場需要と市場供給, 余剰分析, 資源配分の効率性] 5. 独占 (2回) [キーワード: 市場の失敗, 限界収入, 独占価格, 死荷重] | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 受講生は毎回の講義内容の復習を中心に自学自習を行ってください。そして講義中に示す問題や宿題を解いて、計算や作図を行い、自分の理解を確認してください。また、経済学的な考え方の習得には、単に授業内容を学習するだけでなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を考える、つまり理論の世界と現実の世界の間で往復思考を行う姿勢が不可欠です。 | | | |
| 教科書・参考書等 【教科書】 使用しません。講義資料を配布します。 【参考書】 自学自習用に参考書は必要です。自分に合うテキストを手元に用意してください。例えば ・芦谷政浩(2009)『ミクロ経済学』有斐閣。 ・武隈慎一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社。 その他は初回授業で紹介します。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日4時限目(予定) | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義内容は積み上げ式ですから、継続的な出席が単位取得の大前提です。試験直前の詰め込み勉強だけでは単位取得は困難です。その他は初回授業で説明します。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|-----------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312012) ミクロ経済学 I ロ Microeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期金3 | 対象年次及び学科 2～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 星野 良明 | 関連授業科目 | ミクロ経済学II | |
| | 履修推奨科目 | 経済数学入門, 経済と数学 | |
| 学習時間 講義90分×15回+自学自習 | | | |
| 授業の概要 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部の様々な科目がミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し、ミクロ経済学は経済を構成する個々の消費者や企業の行動に注目します。そして個々の行動(最適化)と相互関係(均衡)を考慮して、市場・産業、さらには経済全体を分析します。 ミクロ経済学Iとミクロ経済学IIでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。前半の本講義では、(1)需要と供給、(2)企業行動と供給曲線、(3)消費者行動と需要曲線、(4)部分均衡分析、(5)独占の各トピックを学習します。 | | | |
| 授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、生産者理論の基礎、消費者理論、部分均衡論、独占の理論を習得する。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> 完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 ミクロ経済学の観点から、消費者の需要が所得や市場価格にどのように反応するか説明できる。 市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 | | | |
| 成績評価の方法と基準 宿題 (30%) と期末試験 (70%) により評価します。詳細は初回授業で説明します。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 授業資料をMoodleに公開するので、各自印刷して持参してください(初回を除く)。授業は主に資料とプロジェクト投影を用いて進めていきます。演習問題を宿題として課します。予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、問題を解いて理解を確認することが必要となります。 【授業計画】 進行状況により若干の変更をする可能性があります。 1. 需要と供給 (3回) [キーワード: 市場経済, 需要曲線, 供給曲線, 均衡, 完全競争, 比較静学] 2. 企業行動と供給曲線 (3回) [キーワード: 費用関数, 限界費用, 利潤最大化, 供給関数] 3. 消費者行動と需要曲線 (4回) [キーワード: 効用関数, 無差別曲線, 限界代替率, 予算線, 効用最大化, 需要関数] 4. 部分均衡分析 (3回) [キーワード: 弾力性, 市場需要と市場供給, 余剰分析, 資源配分の効率性] 5. 独占 (2回) [キーワード: 市場の失敗, 限界収入, 独占価格, 死荷重] | | | |
| 【自学自習に関するアドバイス】 受講生は毎回の講義内容の復習を中心に自学自習を行ってください。そして講義中に示す問題や宿題を解いて、計算や作図を行い、自分の理解を確認してください。また、経済学的な考え方の習得には、単に授業内容を学習するだけでなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を考える、つまり理論の世界と現実の世界の間で往復思考を行う姿勢が不可欠です。 | | | |
| 教科書・参考書等 【教科書】 使用しません。講義資料を配布します。 【参考書】 自学自習用に参考書は必要です。自分に合うテキストを手元に用意してください。例えば ・芦谷政浩(2009)『ミクロ経済学』有斐閣。 ・武隈慎一(2016)『新版 ミクロ経済学』新世社。 その他は初回授業で紹介します。 | | | |
| オフィスアワー 木曜日4時限目(予定) | | | |
| 履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義内容は積み上げ式ですから、継続的な出席が単位取得の大前提です。試験直前の詰め込み勉強だけでは単位取得は困難です。その他は初回授業で説明します。 | | | |

| | | | |
|---|----------------|-------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312021) マクロ経済学 I イ Macroeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期金3 | 対象年次及び学科 2～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 持田 めぐみ | 関連授業科目 | マクロ経済学Ⅱ、上級マクロ経済学 | |
| | 履修推奨科目 | マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |
| 学習時間 講義90分×15回＋自学自習 | | | |
| 授業の概要 マクロ経済学は、国民所得（GDP）、消費、投資、利率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。 また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。 | | | |
| 授業の目的 マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡GDPの値を求めることができる ・ IS-LMモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡GDPと均衡利率の値を求めることができる ・ 円高、円安といった為替レートの変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる <p>※試験では上記以外のことも出題します</p> | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験の他に、複数回の提出課題を課し、「期末試験90%＋提出課題10%」の『総合得点』を用いて評価します。ただし、「期末試験の素点が60点以上であること」を単位取得の条件とします。 他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料（＝未提出でも減点なし）として用いる場合もあります。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| 1. 授業のガイダンス 2～3. マクロ経済学とは何か？ 4～7. 45度線モデル 8～14. IS-LMモデル 15. 授業のまとめ 受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。 自主学習のアドバイス 1. 参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう 2～3. 【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう 4～5. 【復習メイン】テキストを読んで、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう 6～7. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう 8～13. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、数値例の問題を正しく解けるようにしておきましょう 14. 【予習メイン】これまでの講義部分でわからない点を明確にしておきましょう 15. 期末試験に向けて総復習しましょう この授業は、受講生が毎回4時間以上の自主学習をしていることを前提に進めます。（←修学案内を参照）時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしばって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ2時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。 | | | |

教科書・参考書等

教科書は指定しません。下記参考書等から自分に合うものを選んで、適宜使用してください。

| | | | |
|------|---------------|-------|------------------|
| 中谷巖 | 『入門マクロ経済学』第5版 | 日本評論社 | 2007年 |
| 伊藤元重 | 『マクロ経済学』第2版 | 日本評論社 | 2012年 |
| | | など | (2019.2月現在 出版年順) |

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ2列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。(個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。)

※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。

※授業で使用するレジュメ(60~80枚程度)はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。

| | | | |
|---|----------------|-------------------|---------------------------|
| ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312022) マクロ経済学 I ロ Macroeconomics I | 科目区分 | 時間割 前期火3 | 対象年次及び学科 2～経済学部 |
| | 水準・分野 B1ECN | DP・提供部局 bcaE | 対象学生・特定プログラムとの対応 30 |
| | 授業形態 Lx | 単位数 2 | |
| 担当教員名 持田 めぐみ | 関連授業科目 | マクロ経済学Ⅱ、上級マクロ経済学 | |
| | 履修推奨科目 | マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ | |
| 学習時間 講義90分×15回＋自学自習 | | | |
| 授業の概要 マクロ経済学は、国民所得（GDP）、消費、投資、利率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。 また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。 | | | |
| 授業の目的 マクロ経済学の基礎理論を学び、理解することを目的としています。また、ニュースで報じられている実際の経済現象についても、経済学的な視点から考えられるようになることを目指しています。 | | | |
| 到達目標 | | | 学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 45度線モデルを理解し、数値例を用いて均衡GDPの値を求めることができる ・ IS-LMモデルの基本を理解し、数値例を用いて均衡GDPと均衡利率の値を求めることができる ・ 円高、円安といった為替レートの変化がマクロ経済に与える影響について、簡潔に説明することができる <p>※試験では上記以外のことも出題します</p> | | | |
| 成績評価の方法と基準 期末試験の他に、複数回の提出課題を課し、「期末試験90%＋提出課題10%」の『総合得点』を用いて評価します。ただし、「期末試験の素点が60点以上であること」を単位取得の条件とします。 他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料（＝未提出でも減点なし）として用いる場合もあります。 | | | |
| 授業計画並びに授業及び学習の方法 | | | |
| 1. 授業のガイダンス 2～3. マクロ経済学とは何か？ 4～7. 45度線モデル 8～14. IS-LMモデル 15. 授業のまとめ 受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。 自主学習のアドバイス 1. 参考書リストの本などマクロのテキストに目を通し、1冊選んで手元に用意しましょう 2～3. 【予習メイン】テキストの該当部分を各自で予習しておきましょう 4～5. 【復習メイン】テキストを読んで、講義範囲外の知識も各自で身に付けましょう 6～7. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、数値例の問題も正しく解けるようにしておきましょう 8～13. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、数値例の問題を正しく解けるようにしておきましょう 14. 【予習メイン】これまでの講義部分でわからない点を明確にしておきましょう 15. 期末試験に向けて総復習しましょう この授業は、受講生が毎回4時間以上の自主学習をしていることを前提に進めます。（←修学案内を参照）時間の制約があるため、授業ではマクロ理論モデルの“骨組み”に焦点をしばって説明します。授業で扱う内容やその背景を理解するためには、新聞等で報じられる経済ニュースに関心を払いながら、教科書や参考書を使って授業内容の“肉付け”を各自で行うことが必要となります。講義内容をその場で100%理解する必要はありませんが、授業のスピードが速いと感じる人は、あらかじめ2時間程度の予習をしてから授業に臨んで下さい。 | | | |

教科書・参考書等

教科書は指定しません。下記参考書等から自分に合うものを選んで、適宜使用してください。

| | | | |
|------|---------------|-------|------------------|
| 中谷巖 | 『入門マクロ経済学』第5版 | 日本評論社 | 2007年 |
| 伊藤元重 | 『マクロ経済学』第2版 | 日本評論社 | 2012年 |
| | | など | (2019.2月現在 出版年順) |

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※静粛な環境を保つため、なるべく両隣を空けて着席して下さい。試験時は、後ろ2列の着席を禁止します。授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンの使用は一切認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止です。(個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい。)

※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。

※授業で使用するレジュメ(60~80枚程度)はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。